

谷町政 3年間で住みづらくなっている

町長 真摯に受け止め分析する

春日 隆司 議員



住みづらい、移住したい人が増えている

質問 信頼度が高い「町民意識調査」によると、住みづらい、移り住みたいという人が増えている。

町長 真摯に受け止め分析をする。

再質問 家族が健康である、子供が健やかに育つ、楽しく学校生活を送る環境整備、高齢者福祉サービス、働きながら子育てできる環境整備、安心して医療が受けられる、ことをやっていないので町民の満足度が下がっている。

町長 町立病院のCT導入や電子カルテの運用、理学療法士の採用など力を入れてきた。福祉、医療の政策の大きな目玉である。住民の声や子供た

ちの声をしっかりと聞いていきたい。

再質問 懇談会、小中高生懇談会で生の声を聴いているというが、内容に不満、やや不満の方が前町政時より増えている。懇談会を行うことだけが目的となっている。

町長の選挙公約

質問 町民意見で「幸せ日本一」の批判が多い。

町長 他の町より優れた施策ができるとの思いを込めてキャッチフレーズとしてきた。

再質問 町民意見として、死ぬまで住むことができず、まちづくりをして欲しい、幸せは自分の心の中にあるなどの意見がある。

町長 幸せになる意味は、

地域に住んでみたくなくなる、長く住むことができるという環境を作っていくということである。

再質問 町長の選挙公約の「幸せ日本一」を職員が付度して使っているが、町民意識と乖離しておりギャップが大きい。

除排雪の民間委託は課題・問題がある

質問 民間委託の成果は。

町長 きめ細かに委託した事業者と連携して進めていきたい。

再質問 誰のための民間委託か。直営の方がきめ細かに住民の要望に対応できるのも事実である。十分精査しながら進めていただきたい。

自治条例見直し時期は

質問 見直し手続きを踏んできた自治基本条例の改正はいつ行うのか。

町長 詰めができていない。今年度に提案ができればと思う。

まちづくりの軸がぶれてきている

再質問 先人の労苦のもと町民と行政が一体となってコマを回し、それが遠心力となって外向けに継続して評価を得て、SDGs未来都市選定となったが、一方で、「住みづらくなつた、移住したい人」が増えるなど町制への満足度の低下している。軸がぶれてきているのが下川町の実情、現状である。